

言葉遣いを見直そう～11月はふれあい月間～

10月が終わり、11月になりました。

10月は神無月(かんなづき)と呼ばれます。これは全国の神々が島根にある出雲大社に集結するため、他の地方には「神がいなくなる月」という意味です。そして神様が集まる島根では、10月を神在月(かみありつき)と言うそうです。

11月の有名な呼び名に、霜月(しもつき)があります。旧暦の11月は現在の12月頃で、霜が降りる頃だったのでしょう。霜降月が霜月になったという説もあるようです。他にも雪待月(ゆきまちづき)という呼び名もあります。さらに神帰月・神来月(かみかえりづき・かみきづき)と言われることもあり、「10月に出雲大社へ行った神様が、11月に帰って来る」というものが由来だということです。

日本語の使い方というものは非常に面白いものです。言葉を上手に使って風習や生活文化を伝えたり、思考を表したり、他者を勇気づけたりします。言霊(ことだま)といって、言葉には霊力が宿っているという考えもあるほどです。

言葉の使い方をもう一度見直してみましょう。先日の全校朝礼では、校長先生から「チクチク言葉・ふわふわ言葉」のお話もありました。周囲を傷つける言葉を発していることはありませんか。聞いた人が不快になるような言葉遣いになっている人はいませんか。日常生活での言葉遣いを見直すことで、生活そのものが豊かになっていくかもしれません。11月はふれあい月間です。周囲の仲間とのふれあいを大切に!

読書の秋～11月は学習・読書月間でもあります～

「読書の秋」です。日が暮れるのが早くなり、涼しい秋の夜長は読書に適しているということでしょう。

さて、全国学校図書館協議会によると、【2023年5月1か月間の平均読書冊数は、小学生は12.6冊、中学生は5.5冊、高校生は1.9冊である】【不読者(1冊も読んでいない人)の割合は、小学生は7.0%、中学生は13.1%、高校生は43.5%である】ということです。

小学生の頃に比べて、読書冊数が減っています。中学生になり部活動や習い事が始まった、スマホの所持率が上がったなど、様々な理由が考えられますが、少し前までは多くの人が読書に親しんでいたはずでした。

読書は、人に知識を与えてくれます。そして想像力や思考力、判断力が鍛えられます。読書から悩みを解決するヒントを得ることができたり、個人の内面を広げてくれることもあるはずでした。

今月は学習月間・読書月間となっています。朝の活動にしっかりと取り組み、落ち着いた一日の始まりにしましょう。

☆来週の予定☆

| | |
|---------|------------------|
| 11/4(月) | 文化の日振替休日 |
| 11/5(火) | ①～⑤ 専門・中央委員会 |
| 11/6(水) | ①～④ 中教研 |
| 11/7(木) | ①～⑥ 平常時程 わくわく自習室 |
| 11/8(金) | ①～⑥ 平常時程 |

